

バインダ収穫した玄米へ土壤中の放射性セシウム濃度の影響はない。

福島県総合センター 作物園芸部稻作科

事業名 放射性物質除去・低減技術開発事業

小事業名 放射性物質の吸収量の把握

研究課題名 水稻の放射性物質の吸収量の解析

担当者 藤田智博・藤村恵人・佐藤誠・鈴木幸雄・佐久間祐樹・大和田正幸

I 新技術の解説

1 要旨

バインダ収穫では、稻体をほ場に放出するため、稻わらや糀に泥が付着して放射能汚染の危険がある。バインダ収穫時の泥の付着が玄米の放射性セシウム濃度にどのように影響するかを明らかにした。

- (1)玄米は、収穫時に田面が湿っている場合でも泥の付着は少なく放射性セシウム濃度は検出限界以下であった。
- (2)稻わらと糀は、収穫時に田面に水がある場合は稻わら、糀に泥が付着して放射性セシウム濃度が増加した。

2 期待される効果

- (1)バインダ収穫時における玄米の放射性セシウム濃度の参考になる。
- (2)バインダ収穫における稻わらや糀殻などの副産物の利用の参考になる。

3 活用上の留意点

- (1)水田が十分に乾かず柔らかい場合は、泥が多く付着して、玄米の脱穀、糀すりの段階で玄米の放射性セシウム濃度が高くなるので作業機械はこまめに清掃をする。
- (2)稻わらや糀殻などの副産物は、バインダだけでなく、コンバインでも収穫後の稻束をほ場内に落下させるため、玄米が検出限界値以下の水田でも注意が必要となる。
- (3)稻わら及び糀殻の利用にあたっては、農林水産省や福島県のホームページ等で確認する。

II 具体的データ等

表1 バインダ収穫後の放射線量 (Bq/kg DW)

試験区	試料	検出値	
		Cs-134	Cs-137
標準区	玄米	ND(<7.9)	ND~6.6
	糀	ND(<15)	ND(<12)
	稻わら	20~40	ND~22
滞水区	玄米	ND(<9.1)	ND(<7.8)
	糀	59~100	80~120
	稻わら	120~130	110~160

注) 滞水区は収穫直前に灌水して水たまり状態。
なお、ほ場は収穫14日前に落水した。

III その他

1 執筆者

藤田 智博

2 実施期間

平成23年度

3 主な参考文献・資料

(1) 平成23年度 福島県農業総合センター試験成績概要